

環境技術研究所ニュース：

環境技術研究所が市内の海蔵川・竹谷川・大口川と富田・十四川を調査

2023年11月13日（月）の午前中に武本研究所長と高橋研究員らの環境技術研究所が海蔵川の本支流と上流の竹谷川・大口川を調査しました。この調査は環境技術研究所の調査研究の一環として行われています。午前中は晴れで、気温もやや温かくよい調査日和でした。

海蔵川は10数年ほど前から下流と中流で継続調査しており、7・8年前調査依頼があった上流側の本流と竹谷川・大口川も追加して行われています。海蔵川上流菰野町の大口川にある養豚場や市の県地区の竹谷川上流の養豚場からの排水が本水系の汚染を起こしていることから、県地区市民センターの中本館長や「竹谷川の蛍と桜を守る会」と共同で調査実施中です。この地区では、高濃度の畜産排水有機汚濁のため、蛍が減少したり、過去には稲作が被害を受けたため、対策が急がれ、竹谷川上流のSi農園では水質改善工事は完了し、飼育頭数も100頭へと少なくして、豚飼育数調整中とのこと。溶存酸素濃度は少し低く、電気伝導度がやや低く、流れは綺麗でした。

また、いつも汚染がひどい大口川でもかなり水底はかなりきれいになっていました。この大口川のある菰野町では、3億円以上を投じて大口川支流の養豚場付近側溝・用水路を改修する工事が完了しました。またこの川に排水を流しているSa養豚場も県の補助も含めて数千万円をかけて排水処理工事に着手し、環境改善の動きが活発化しています。Mi農園は最近では1千頭に飼育頭数をへらしたそうです。さらに上流のYa農園さんは飼育をもうやめたそうです。われわれの水質調査も役立ったそうです。

翌日の11月14日（火）の同じく午前中に武本研究所長と高橋研究員らの環境技術研究所が富田地区の十四川を調査しました。

この十四川は10年ほど前から富田地区市民センターや「十四川を守る会」の稲垣さん(ご高齢で欠席)らと共同で調査しています。まだ、乾燥期に入っていない時期で、この秋には中下流部の北鵜町からは朝明川からの導水を少ししています。数日来の好天気で、中下流の流量は少な目でした。中流部のスーパーサンシ付近でも、流量は少なく、かつ家庭・飲食店や田畑からの排水流出があり、晩秋でも有機汚濁が認められ藻類が川床に繁茂し、窒素分やCOD（化学的酸素要求量）値はやや高めでした。河口付近の豊栄橋では、樋門が閉まって流れが滞留し、底はヘドロで海水が混じっていました。



海蔵川支流の部田川上流部：半導体工場からの排水口



海蔵川中下流のしらさぎ橋での採水(川幅は広い)



中流部の支流の江田川での採水状況



大口川の下流部では窒素やリンが減少し、水質が改善
(以前の川底のヘドロ堆積に比べ、かなり少なくなった)



大口川上流用水路(Mi 農場↑そば排水口の上流付近、やや臭気あり)



十四川最下流部の豊栄橋で採水作業、閘門閉鎖滞留中（下は川底）



近鉄線路↑下の十四川はやや流れあり



北鵜町ごみ置き場の下の十四川。朝明川導水↑あり、流量は少な目



富田山城道路沿いの中流部：スーパーサンシの下流では藻類は繁茂



十四川上流部の畑作地帯は用水路で流量は若干あり